

⑩ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 實用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報 (U) 昭63-42520

⑬ Int. Cl.⁴B 65 D 5/44
5/28

識別記号

府内整理番号

⑬ 公開 昭和63年(1988)3月22日

6540-3E
6540-3E

審査請求 有 (全頁)

⑭ 考案の名称 運搬用箱

⑮ 実 願 昭61-136412

⑯ 出 願 昭61(1986)9月5日

⑰ 考案者 小泉 昌一 神奈川県伊勢原市板戸375番地 相模製函株式会社内

⑱ 出願人 相模製函株式会社 神奈川県伊勢原市板戸375番地

⑲ 代理人 弁理士 高木 福一

明細書

1. 考案の名称

運搬用箱

2. 実用新案登録請求の範囲

該ボールにおけるライナー及び中心をポリプロピレンによつて形成した一枚の板を裁断し、底壁1を中心とし、該底壁1の左右両側に折線2,3を介して前壁4、後壁5を連設すると共に該底壁1の上側と下側に折線6,7を介して側壁8,9を連設し、更に該側壁8,9の左右両側に折線10,11,12,13を介して前壁4、後壁5の内面に添わせて貼着する重合貼着板14,15,16,17を連設した運搬用箱本体において、前記前壁4及び／又は後壁5の所要部に名札差の大きさよりも稍大径の切欠部20,21を設けると共に、前記重合貼着板14,15,16,17の広さを、該重合貼着板14,15,16,17をもつて前記切欠部20,21を前壁4、後壁5の裏側から覆うことができる広さに構成し、以つて前記折線に沿つて側壁8,9、前壁4、後壁5の

244

- 1 -

夫々を起立させ、重合貼着板14, 16を前壁4の、重合貼着板15, 17を後壁5の内面に夫々貼着して箱本体を組み立てたとき、前壁4、後壁5の切欠部20, 21内に箱本体とは別体に形成される名札差22を嵌め入れ、切欠部20, 21から露出する各重合貼着板14, 16, 15, 17の外面に該名札差22を取着することができるようになしたことを特徴とする運搬用箱。

3. 考案の詳細な説明

「産業上の利用分野」

本考案は運搬用箱に関するものである。

「従来の技術」

本考案は段プラボックスと称される運搬用箱に関するものであり、該箱は箱の素材として第7図に示した板を用いるものである。該板は従来の段ボールにおけるライナーa, b及び中心cをポリプロピレンによつて形成したものである。

斯かる板をもつて製作される従来の運搬用箱は、第5図に示す如く、品名、納入社名等を記入した名札Aを収容する名札差Bを箱の前壁Cの外面に

取着していた。しかし、斯かる段プラボックスと称される運搬用箱にあつては、前壁Cが垂直で且つ扁平であるため、名札差Bは外側に出つ張つた状態となつてゐる。

このため物品を収容して運搬するときや、いくつも箱を積み重ねるとき等に名札差Bが他の箱等に接触しやすく、最近特に接触による名札差の毀損事故が多発し、この点の改善が強く望まれている。

「考案が解決しようとする問題点」

本考案は上記の点に鑑みなされたものであつて、
箱本体の前壁及び／又は後壁の所要部を名札差よ
り稍大径に切欠すると共に、側壁に折線を介して
連設した重合貼着板をもつて前記切欠部を前壁及
び／又は後壁の裏側から覆うようになし、箱本体
を組み立てたとき、該切欠部から露出する重合貼
着板の外面に名札差を取着するようになして、名
札差の出つ張りを少なくした運搬用箱を提供せん
とするものである。

「問題点を解決するための手段」

以下、本考案を図示した実施例に即して更に詳細に説明する。

第1図は組み立てを完了した状態における斜視図、第2図は箱本体の展開平面図、第3図は組み立て途中における斜視図、第4図は名札差を重合貼着板の外面に取着した状態の縦断面図である。
出山職印

本考案は、従来の段ボールにおけるライナー及び中心をポリプロピレンによつて形成した一枚の板を裁断して組み立てる箱本体と、該箱本体と別体に形成する名札差とからなるものである。尚、名札差はポリプロピレンによつて形成されるものである。

然して、箱本体主は第2図に示した如く裁断するものであり、底壁1を中心とし、該底壁1の左右両側に折線2、3を介して前壁4、後壁5を連設すると共に該底壁1の上側と下側に折線6、7を介して側壁8、9を連設し、更に該側壁8、9の左右両側に折線10、11、12、13を介して前壁4、後壁5の内面に添わせて貼着する重合貼着板14、15、16、17を連設してなるも

のである。また、前記前壁4と後壁5には把手穴18, 19が穿設されている。そして、本考案にあつては、前記前壁4及び／又は後壁5(図示した実施例においては前壁4と後壁5の両方)の所要部(図示した実施例においては中央部)に後記名札差の大きさよりも稍大径の切欠部20, 21を設けると共に、前記重合貼着板14, 15, 16, 17の広さを、該重合貼着板14, 15, 16, 17をもつて該切欠部20, 21を前壁4、後壁5の裏側から覆うことができる広さに構成したことと特徴とするものである。

尚、本実施例においては、各重合貼着板14, 15, 16, 17の幅W₁は前壁4又は後壁5の幅W₂の1/2としている。

そして、箱本体を組み立てる場合には、先ず折線6, 7に沿つて側壁8, 9を夫々起立させると共に折線10, 11, 12, 13に沿つて各重合貼着板14, 15, 16, 17を夫々内側に向けて折り曲げる。次に折線2', 3'に沿つて前壁4, 5を夫々起立させると共に、前壁4の内面に重合

貼着板 14, 16 を、また後壁 5 の内面に重合貼着板 15, 17 を夫々添わせて接着することによつて完了する。

このようにして箱本体の組み立てを完了した後、前壁 4、後壁 5 の切欠部 20, 21 に箱本体とは別体に形成した名札差 22 を嵌め入れ、接着、ビス止め等の手段によつて切欠部 20, 21 から露出する各重合貼着板 14, 16, 15, 17 の外面に取着するものである。

「考案の効果」

本考案は上記の如く、箱本体の前壁及び／又は後壁の所要部を名札差より稍大径に切欠すると共に、側壁に折線を介して運搬した重合貼着板をもつて前記切欠部を前壁及び／又は後壁の裏側から覆うようになし、該切欠部から露出する重合貼着板の外面に名札差を取着するようになしたものであるから、名札差は前壁又は後壁の厚味の分だけ箱内部に引っ込んだ状態で取着されることになる。

したがつて、従来の如く名札差が箱本体より大きく出つ張らないから、運搬時や箱を積み重ねる

とき等でも名札差が他の箱等に接触して毀損するといった事故は皆無となり、名札差のつけ替えに要する無駄な手間と費用を節約することができるものである。

4. 図面の簡単な説明

第1図は組み立てを完了した状態における斜視図、第2図は箱本体の展開平面図、第3図は組み立て途中における斜視図、第4図は名札差を重合貼着板の外面に取締した状態の縦断面図、第5図は従来の箱の斜視図、第6図は従来の箱における名札差の取締部分の縦断面図、第7図は箱素材の説明図である。



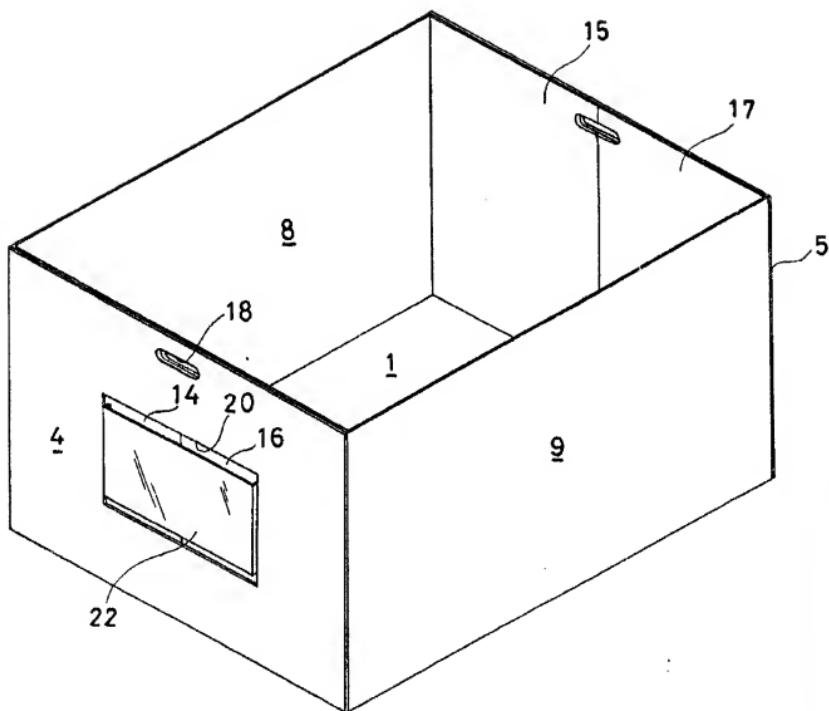
実用新案登録出願人

相模製函株式会社

代理人弁理士

高木福一

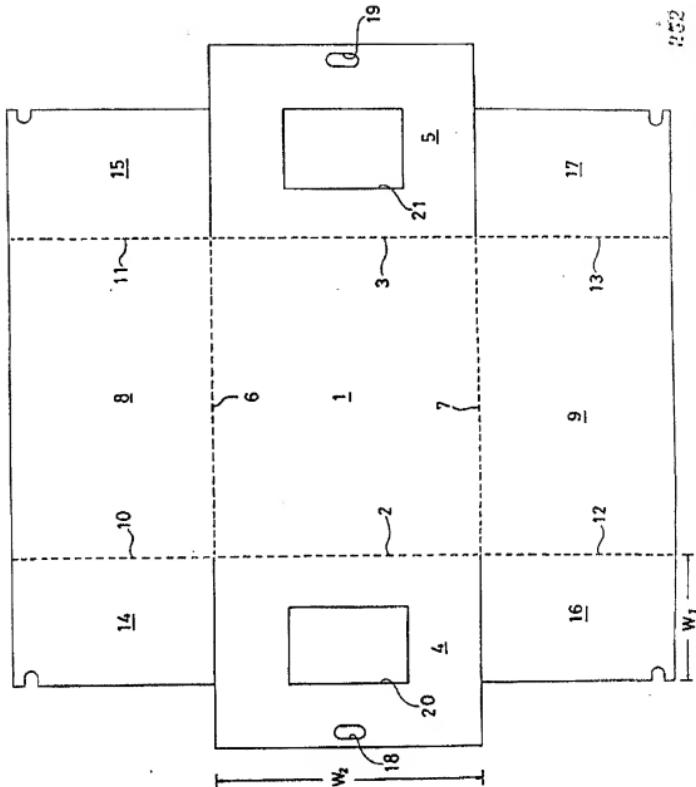
第 1 図



251

代 理 人 辦理士 高木福一

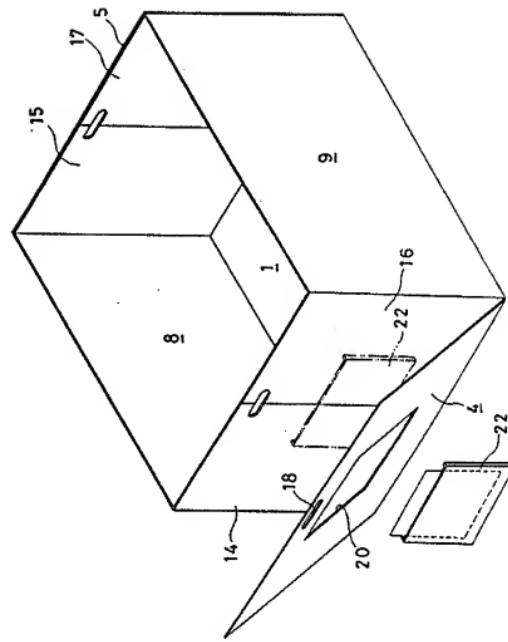
第2図



代理人 ㈱西士高木器一
新潟市中央区東新潟町252

公開完用 昭和63- 42520

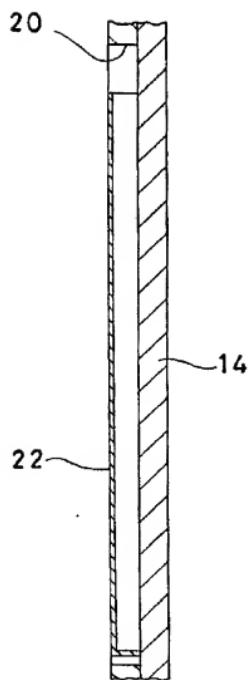
第3図



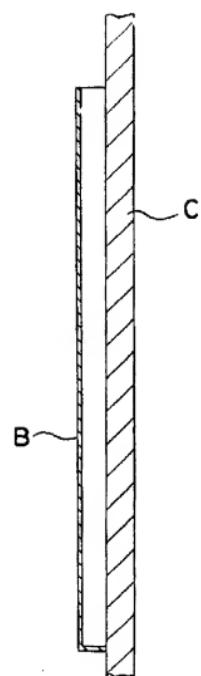
代理人 増田高木一
Hiroshi Kato

253

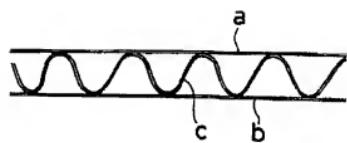
第 4 図



第 6 図



第 7 図



254

代理人 権理士 高木福一

第 5 図

